備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成25年度事業）

事業の概要						
事業開始年度		平成１７年		根拠法令・例規等	健康増進法・食育基本法 備前市健康づくり推進協議会条例	
総合計画	大項目	基本構想	04 土台となる政策「安全・安心」	問合先	担当課（室）	保健課
	中項目	基本計画	06 誰もがいつまでも安心して暮らせるまち		職・氏名	健康係長・江見清人
	小項目	施　策	23 生涯を通じた健康づくりの推進		電　話	６４－１８２０
事務事業名			10 健康づくり推進協議会事業	このシート作成に要した時間		時間

Plan

事業の目的	
対　象 （誰・何に対して）	乳幼児期から高齢期までの市民
目　的 （何のために）	市民の健康の保持及び増進のために必要な対策の検討並びに総合保健計画の立案とその施策の推進を図る。
事業の意図する成果 （どのような状態にしたいのか）	健康づくり推進協議会で必要とされた施策を実施することにより、市民一人ひとりが主体的に健康づくりや食育に取り組み、総合保健計画（健康びぜん２１、備前市食育推進計画）の目標が達成され、その結果市民の健康が増進する。

Do

事業の実績	細事業名	事業の説明	優先度
目的を達成するため実施した事業	健康づくり推進協議会事業	健康づくり推進協議会を開催し、健康びぜん２１・食育推進計画に沿った保健事業等について、必要な対策や取り組みについて検討し、毎年の事業計画を作成する。 平成２５年度は第２次健康びぜん２１及び食育推進計画の策定にあたった。目標年度である平成３５年度は次期計画策定の委員会を兼ねる。	◎

事業費等		単位	平成23年度実績		平成24年度実績		平成25年度実績	
決算額	事業費 直接事業費	千円	189		197		1,821	
	事業費 必要人員 人件費		0.32人	2,365	0.49人	3,496	1.23人	9,163
	事業費 事業費計		2,554		3,693		10,984	
	財源 国県支出金	千円						
	財源 受益者負担							
	財源 繰入金							
	財源 市債							
	財源 その他（　）							
	財源 一般財源		2,554		3,693		10,984	
	受益者負担比率	%	－		－		－	

結果指標名	単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
説明		健康づくり推進協議会の年間開催回数		
結果指標量	回	2	2	4
対前年比	%	－	100.0%	200.0%
活動コスト	円	2,554,000	3,693,000	10,984,000
単位当たりコスト		1,277,000	1,846,500	2,746,000

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

事業の成果	成果指標名	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度目標値
「健康びぜん２１」ライフステージの重点目標（11項目）のうち前年度より達成目標に近づいた指標の数		目標値（A）	11	11	11	10
		実績値（B）	5	6	5	到達目標値
		達成率（B/A）	45.45%	54.55%	45.45%	10

成果指標設定の考え方・式や説明

「健康びぜん２１」ライフステージの重点目標①う歯罹患率の減少（乳幼児期3・6歳）②③朝食を毎日食べる児の増加・小学６年生・中学３年生（学童・思春期）④節目健診者数の増加（青・壮年期）⑤BMI２５以上の人の減少（中年期）⑥介護保険認定率の維持（高齢期）⑦朝食を毎日食べる人の増加・３歳６カ月児（食育推進計画）⑧年に一度、健診をうける人の増加（中年期）⑨治療者の減少・男性・女性（青・壮年期）⑪週2日以上運動をしている人の増加（４０歳代）のうち前年度より達成目標に近づいた指標の数（⑧～⑪は平成２２年度より「市民意識調査」に追加）（②・③はH23～は小5年・中2年に変更）

Check

事務事業の評価		該当する項目を□から■へ　＜　■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞	妥当性評価
妥当性の評価	市の関与の妥当性必要性	□ 市が実施するよう法令で義務づけられている	A B C D E 高い や や 普通 や や 低い 高い　低い
		□ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす	
		□ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない	
		□ 事業の内容が一部の受益者に偏っている	
		□ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている	
		■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	B
		□ 事業開始当初の目的から変化してきている	
		□ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	
		■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	
	市民ニーズ	□ 市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト手段	□ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している	効率性評価 A B C D E 高い や や 普通 や や 低い 高い　低い
		□ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある	
		□ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある	
		■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい	
		□ 受益者負担率は適正である	
		□ 受益者負担率を見直す余地がある	
		■ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	B
		□ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	
		□ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	
有効性の評価	目的達成度市民参画度	■ 成果指標の設定は適切である	有効性評価 A B C D E 高い や や 普通 や や 低い 高い　低い
		□ 成果指標の到達目標値は達成できそうである	
		□ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している	
		■ 成果指標達成率は80%未満となっている	
		□ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	
		□ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい	
		■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している	
		■ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	A

進行年度（H26年度）の改革改善内容	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
状　況			○				
説　明	前年度に策定した、第２次健康びぜん２１・備前市職域推進計画に基づき、関係機関や団体とともに、生涯を通じた健康づくりのために、課題に対する取り組みを推進する。 計画についても、委員を通じ様々な団体などにＰＲできるように、方法などについても検討する。						

総合評価	総合評価
今後１０年間の備前市の健康づくりの方向性を、計画により進めていくにあたり、あらためて健康課題と計画の目標にとなる指標に向けた、適切な取り組みを検討し、市だけでなく、関係団体や地域を巻き込んだ方法を進めていく。そのため、地域や職域での取り組みのコーディネイトにも積極的に関与していくことを目指す。 地域で市民の健康づくりの輪が広がるよう、協議会の運営を行う必要がある。	A B C D E 高い や や 普通 や や 低い 高い　低い A

Action

平成27年度の方向性・取組目標	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
方向性		○					
取組目標	第２次健康びぜん２１・備前市職域推進計画に基づき、関係機関や団体とともに、生涯を通じた健康づくりのために、課題に対する取り組みをより一層推進していく。 また、前年度に行った取り組み内容について、ＰＤＣＡサイクルに基づいた再検討などを行う。						